

事例
C-③北九州商工会議所
モノづくり産業と歴史を活かした産業観光の推進

1. 面的支援の概要

(1) 支援のきっかけ

北九州市は鉄鋼をはじめ、窯業、化学工業、自動車産業などの製造業が基幹産業を占めるが、企業の海外移転や合理化などによる産業の落ち込みや急激な人口減少、高齢化などの問題も深刻化している。特に人口は最盛期の107万人から約96万人にまで落ち込み、高齢化率も27%と極めて高くなった。

また、地域の中心市街地については、行政、商店街、北九州商工会議所が中心となって商店街活性化事業を実施しているが、目標達成には至っていない。

この問題を解決するために、平成22年から北九州商工会議所が取り組んだのが「産業観光」である。歴史的・文化的に価値ある産業遺産や稼働中の工場現場などを新たな観光資源として捉え、食や文化といった地域資源と組み合わせた「産業観光」を定着させることで、観光客や交流人口の増加を図り、街全体が潤う仕組みになるように事業推進している。

(2) 支援のプロセス・アプローチ法

① 支援プロセス

平成23年度・24年度は地域力活用新事業∞全国展開プロジェクトに採択され、平成25～27年度は福岡県の「提案公募型地域活性化事業」に認定された。下関商工会議所と協力して開催した「全国商工会議所観光振興大会in関門」では、過去最多の1,720人を動員した。

② アプローチ方法

平成22年11月から北九州商工会議所会頭に就任した安川電機の利島会長（当時）がこの産業観光の口火を切り、同社は年間8,000人もの見学者を受け入れている。

平成23年度、同商工会議所は産業観光推進室を設置し、工場見学を核に、他の地域資源を組み合わせた産業観光を提案した。日本の近代化を支えた基幹産業工場「新日鐵住金八幡製鐵所」や産業用ロボットの累計出荷台数世界一を誇る「安川電機」、衛生陶器の最新技術を持つ「TOTO」、全国随一の無添加石けん専門メーカー「シャボン玉石けん」など、普段は入ることができない工場を見学できるコースを企画し、旅行会社と提携した産業観光ツアーや団体視察の受け入れを積極的に行っている。

(2) 支援内容

① 地域住民の参画を推進

観光協会が中心となって、北九州の産業紹介や歴史の語り部として北九州市民40人のボランティアを組織し、産業観光ガイドや工場夜景ナビゲーターとして活躍していただいている。

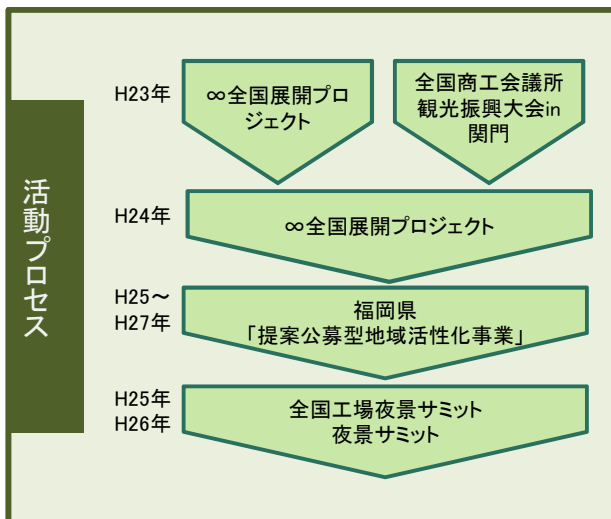
② ツアー企画等の継続による観光客集客

「発地型産業観光ツアー」「着地型産業観光ツアー」「工場夜景クルージング・角打ち」「インバウンド推進」など様々なツアー企画を打ち出して産業観光の継続性を維持している。

平成24年26万人だった産業観光客を平成27年には50万人に倍増すべく事業推進している。

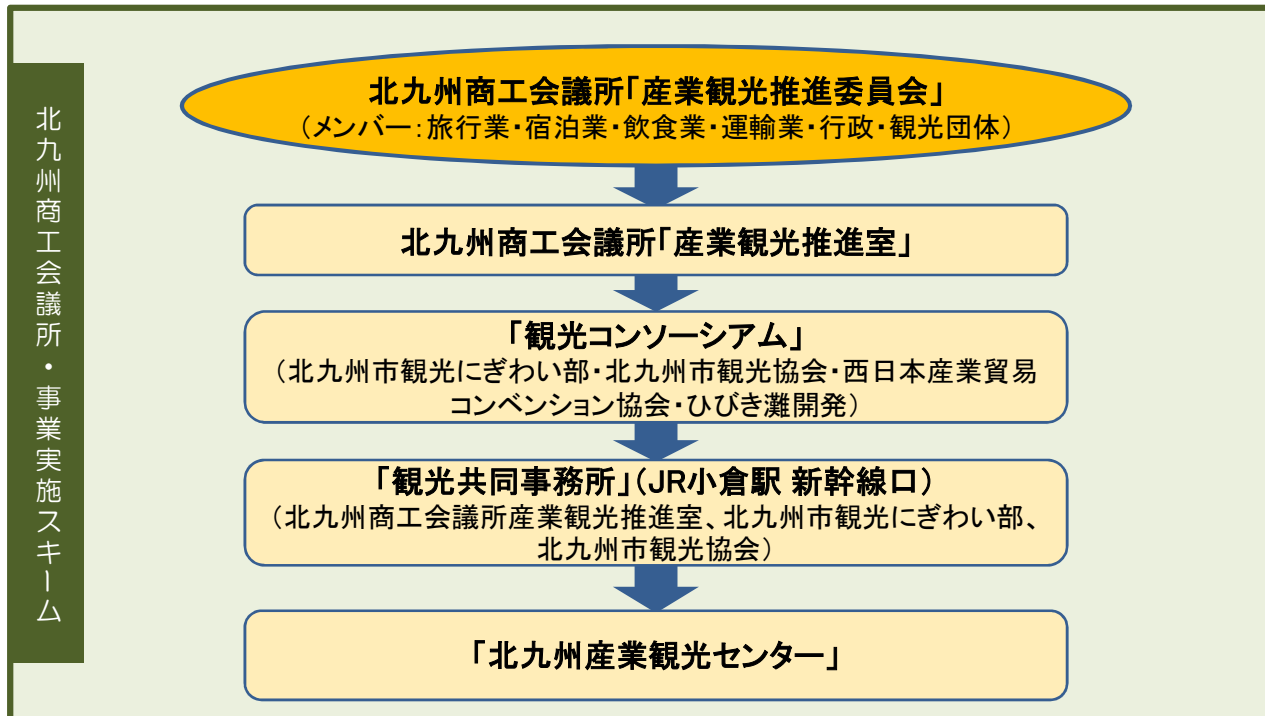


近代製鉄業発祥の地・東田第一高炉跡



北九州商工会議所
モノづくり産業と歴史を活かした産業観光の推進

2. 支援組織・連携スキーム



(1) 会員企業工場を中心に観光資源化

会員企業を中心に産業観光受入施設を広げているが、モノづくり企業については製造工程の見学、環境産業企業については工書の克服と新しい産業への進展、史料館についてはモノづくりのロマンと先人の功績を観光内容としている。

当初は大企業中心の見学先であったが、中小企業にも拡大して54施設になっている。

これらの資源と北九州発祥のグルメなどを組み合わせた宿泊付きの観光コースなどの提案も行っている。

(2) 連携スキーム

平成26年4月より、北九州市、北九州商工会議所、北九州市観光協会の官民のそれぞれの観光関連部門が、一箇所に集結して業務を開始したが、観光客や事業者に大変好評を得ている。

さらに観光客の利便性を高めるため、各団体の垣根を越えた産業観光のプロジェクトチームを「北九州産業観光センター」として立ち上げた。

また、プロジェクト活動の一環で、産業観光の情報発信強化のために、専用ホームページを開設した。

(産業観光専用ホームページ
<http://www.sangyokanko.com/>)



繊細な動きを正確に再現する産業用ロボット(安川電機)



工場夜景クルージングの一コマ

北九州商工会議所 モノづくり産業と歴史を活かした産業観光の推進

3 成果

① 産業観光関連の大賞をダブル受賞

日本商工会議所は平成26年10月「平成26年度全国商工会議所さきり輝き観光振興大賞」の受賞商工会議所の大賞を北九州商工会議所に決定した。これは、行政や観光協会との地域一体型の観光組織発足により、産業観光を持続的に実施するための体制整備の実現が評価された。

また、産業観光によるまちづくりで他の地域の模範となる優れた事例を（公社）日本観光振興協会が選定、表彰する「第8回産業観光まちづくり大賞2014」において、北九州商工会議所・北九州市・北九州市観光協会が連携して設立した「北九州産業観光センター」が金賞（最高賞）を受賞した。

官民が協力して組織した「北九州産業観光センター」が優れた推進体勢であること、どちらかというマイナスのイメージを持たれがちな「工場」を逆転の発想で観光資源にして、様々なツアーに多くの観光客が参加した実績などが、高い評価を得た。

2つの大賞をダブル受賞した商工会議所は、北九州商工会議所が全国初となる。

北九州商工会議所・産業観光推進室
の北野室長

② 広域連携の構築

北九州商工会議所では、広域での会議所間の観光振興を推進している。下関商工会議所との関門連携、大分県下の商工会議所との北大連携、全国各所の商工会議所との工場夜景連携、九州新幹線沿線区域商工会議所との関西・九州連携などである。

同所・産業観光推進室の北野室長より「今ある産業を観光資源化することは全国どこでも可能です。産業観光こそ全国の商工会議所で取り組むべき事業だと思います。産業観光で全国の各地域に賑わいをつくりましょう」との言葉をいただいた。



4 今後の計画

① 地域にお金が落ちる産業観光を創る

産業観光を体験した観光客の満足度は非常に高く、8割以上が満足と答えており、リピーターが多いのが特徴である。ただ、日帰りバスツアー等の観光は地元にあまりお金が落ちないのが問題となっている。今後は「工場夜景クルーズ」や「角打ち」など北九州ならではの夜の魅力を加え「宿泊型」の産業観光の定着を狙う。

② 各商工会議所、団体の産業観光働きかけ

今後は更に各商工会議所等の視察研修受け入れや、各種コンベンションのエキスカージョンでの産業観光採用を働きかけ、直接事業としても来訪者増を図っていく計画である。

また、個人や少人数のグループでも参加できる産業観光ツアーを旅行会社と提携して、旅行商品として増やしていく予定である。

5 地域活性化のポイント

- ① 全国どこにでもある「工場」を観光資源にするというユニークな発想をもとに、多くの観光客を地元呼び込んでいる。
- ② 商工会議所、行政、観光協会が一体となって北九州の産業観光の発展のため有機的に結びついている。
- ③ 産業観光ガイド、工場夜景ナビゲーターの育成・活用や地産地消の推進など、地域住民が主体となった観光まちづくりを進めている。
- ④ 子供から大人まで参加の市民向け産業観光ツアーを実施して、市民のシビック・プライドを醸成している。